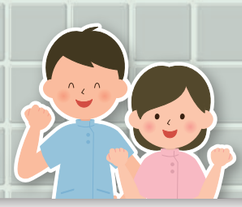
第8回 手術体験セミナーを行いました



附属病院では、3月14日・15日の二日間、
地域社会貢献活動の一環として「手術体験セミナー」を開催しました。
高知県下の中学生・高校生を対象としたこのセミナーは、
医療の現場や医師の仕事を体験することにより、
一人でも多くの学生たちに医師や医療に対する興味を抱いてもらえればと企画したもので、
平成18年度よりほぼ毎年開催しています。
8回目となる今回は、二日間合わせて計56名（男子5名、女子51名）の中・高生が参加しました。
昨年度は第一回の「手術体験セミナー」に参加していた学生が高知大学医学部へ進学し、
研修医となったこともあり、「手術体験セミナー」が一定の成果を上げていることが実感できました。

1

2

3

4

5

6

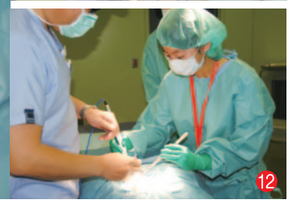
7

8

9

10

11


12

13

14

15

1 腸管吻合(ふんごう)体験
2 講義の様子
3 手洗い体験
4 5 内視鏡外科手術シミュレーター「Lap Mentor」操作体験
6 7 手術支援ロボット「ダヴィンチ」操作体験
8 9 縫合糸を用いた結紮(けっさつ)体験
10 11 内視鏡外科手術トレーニング装置操作体験
12 13 超音波凝固切開装置 操作体験
14 腸管吻合(ふんごう)体験
15 終了挨拶の様子
[写真右から]
小林 道也 教授（医療管理学）、
花﨑 和弘 教授（外科学）、
穴山 貴嗣 先生（外科学）

はじめに花﨑和弘教授（外科学）より開会の挨拶があり、つづいて穴山貴嗣講師（外科学）より「附属病院の紹介と外科系医師の仕事紹介」、小林道也教授（医療管理学）より「内視鏡手術とは」の講義が行われました。その後、参加者は手術室へ移動し、実際の手術着に着替えてプログラムを体験しました。

外科、産科婦人科、整形外科、泌尿器科の医師総勢17名が指導する体験プログラムは、最新鋭の手術支援ロボット「ダヴィンチ」操作、内視鏡外科手術シミュレーターによる手術手技操作、腸管の吻合体験等6つのブースに分けられ、参加者は約3時間かけてそれぞれのプログラムを体験しました。今回の体験プログラムでは、内視鏡外科手術トレーニング装置の操作体験のコーナーへ新たにプロジェクションマッピングが加わり、臨場感あふれる映像もあいまって体験は終始明るい雰囲気に包まれていました。

閉会式では、参加者それぞれに受講証明書が手渡され、笑顔で証明書を受け取っていました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

●普段経験できることのない初めての事ばかりで、純粋に楽しむと同時に繊細な動作の連続で少し疲労も感じました。このような日々を365日24時間体制で経験している医療関係者（特にお医者さん）の方達の偉大さと重要性を改めて感じさせられた一日でした。（中略）将来、皆様の中に自分がいられたらいいなと思います。

●各セッションの先生方、スタッフの方が、本当に優しくて、何回失敗しても、根気強くサポートしてくださって、楽しく体験することができました。